



～バンダイこどもアンケートレポート Vol.30

**「お子様に大切にしてほしい言葉、
使ってほしくない言葉は何ですか？」**

感謝の気持ちは素直に 人を傷つける言葉・流行語はやめて

この調査は雑誌誌上で当社が行っている、アンケート付きプレゼント企画への回答をまとめたものです。保護者を対象としたこどもに関する設問で、月1回の調査を行っています。質問内容は玩具に限定することなく、広い視野からこどもたちの生活に密着した生の声をまとめ、現代のこどもたちの実態をバンダイ流に解きあかしていこうと考えています。

【調査概要】

調査方法：雑誌広告でのアンケート付プレゼント企画によりハガキで募集

実施時期：1997年9月

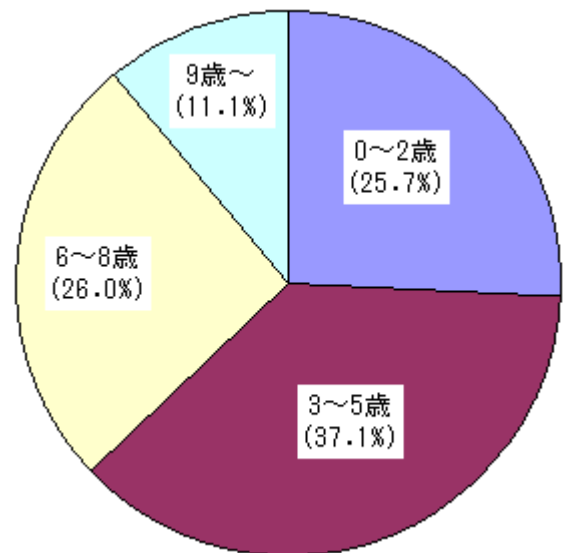
質問内容：お子様に大切にしてほしい言葉、使ってほしくない言葉は何ですか

有効回答数：542人

男女総計 542人

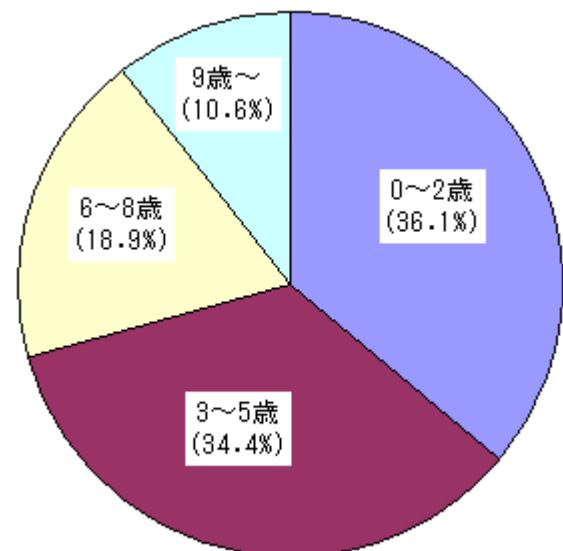
★男児の母親★

年齢内訳	0～2歳	81人
	3～5歳	117人
	6～8歳	82人
	9歳～	35人
	計	315人



★女兒の母親★

年齢内訳	0～2歳	82人
	3～5歳	78人
	6～8歳	43人
	9歳～	24人
	計	227人



<アンケート結果>

★こどもに大切にしてほしい言葉

男児（315件中／複数回答含む）

1	「ありがとう」	224件
2	「ごめんなさい」	37件
3	思いやりのある言葉	18件
	あいさつの言葉	18件
	その他（少数意見）	41件

女児（254件中／複数回答含む）

1	「ありがとう」	159件
2	「ごめんなさい」	35件
3	思いやりのある言葉	25件
4	あいさつの言葉	15件
	その他（少数意見）	31件

大切にしてほしい言葉 少数意見

「夢」「お母さん好き」「ハイ」「努力」「愛」「仲良くしよう」「希望」「素直」、方言など

★こどもに使ってほしくない言葉

男児（315件中／複数回答含む）

1	「ばか」	101件
2	「死ね」	44件
3	人を傷つける言葉	18件
	「くそばばあ」	18件
5	「あほ」	12件
	「むかつく」	12件
7	人をばかにする言葉	10件
	「おまえ」	10件
	その他（少数意見）	151件

女児（254件中／複数回答含む）

1	「ばか」	94件
2	「死ね」	26件
3	人を傷つける言葉	16件
4	「大キライ」（人に対して）	13件
5	「くそばばあ」	12件
	その他（少数意見）	99件

使ってほしくない言葉 少数意見

「うるさい」「くそじじい」「超〇〇」「おまえ」「ふざけるな」、下品な言葉、

「どうせ～」「〇〇のせいだ」「てめえ」 など

<アンケート結果>

感謝と謝罪の気持ちを素直に言える子どもになってほしい

男女とも「ありがとう」が70%以上と圧倒的な1位で、2位以下も「ごめんなさい」「思いやりのある言葉」「あいさつの言葉」と続いており、全く差が見られなかった。回答はほとんどこの4つに集約されており、少数意見も少なかった。感謝や謝罪の気持ちを素直に言える子どもになってほしいと考えている親が多いようだ。

使ってほしくない言葉—実際は使っている場合も

使ってほしくない言葉の1位、2位は「ばか」「死ね」と、こちらも男女で共通していた。

しかし、実際には子どもが口にすることがあったり、テレビやゲームなどで使われて耳にすることが多く、それが「使ってほしくない」という意識に反映したものと思われる。特に「死ね」という言葉はテレビやゲームからの影響が強く、“死”がどういうことかよくわからないまま子どもが使うことを懸念する意見も見られた。

流行語は使ってほしくない？

男児の使ってほしくない言葉の5位にあがった「むかつく」は現代ならではの言葉で、親たちが子どもだった時代にはあがらなかつたろうと思われる。このほかにも「超〇〇」のように若者言葉を嫌う声もあった。

使ってほしくない言葉には男女差も見られた。人に対する「大キライ」という言葉は、女兒に数多くあがっていた。このことから普段は女兒が使うことが多い言葉ではないかと推測される。

※ このアンケートレポートに関して「子ども調査研究所・渡部 尚美」さんから以下のコメントをいただいております。

■こどもに大切にしてほしい言葉

私の職場にはたくさんのマンガやゲームがあるので、こどもたちが遊びにきますが、最近のこどもたちの言葉使いで気になることがあります。

「シツレイシマース！」そう言ってドヤドヤ入ってきますが、こちらの顔も見ずにマンガを読み始めたかと思うと、「あ、いけね、塾の時間だ」などと言っては、風のように去っていくこどもがいるのです。

ここには、「こんにちは」「マンガ読んでもいい?」「ありがとう」「さようなら」などの、人と人との距離感を推しはかりながら親しくなっていくプロセスが欠如しています。そのかわりに「シツレイシマース！」という、どこかで覚えた、こどもたちにとって意味のよくわからない言葉が「そうっておけば礼儀正しいらしい」記号として使われているのです。

でも、そうしたこどもたちを私たち大人が単純に嘆いたり責めたりできるのでしょうか。

コンビニやスーパーでは、一言も店員さんと会話しないで買い物ができますし、飲み物や電車の切符だって自動販売機で無言で手に入れられます。留守中に届けられた宅配便は、お隣の家で預かってもらうのが難しいほどに、近所づきあいも疎遠になっているといえます。

つまり、生活の中で「知らない人と少しずつ親しくなる」ことがへたな大人が増えてきていて、そうした大人を見ながらこどもたちが育ってきているということなのです。

若いお母さんとこどもが「公園デビューする」という新語が生まれたのも、ふだんの生活で誰かと少しずつ仲よくなっていくプロセスを省略して、いきなり「今日から仲間に入れてください」というデジタルな感覚を人づきあいに持ち込もうとする大人の出現を背景にしています。

都市化社会は、無用な人づきあいを避けて、少数の親しい人とのつきあいだけで完結しようと思えば完結できるシステムを作ってきました。しかし、「たくさんの人と知り合って協力したり共感したりできるほうがもっと豊かな生き方である」ということを、まず大人が気づくこと、そして「ありがとう」「ごめんなさい」という言葉を、記号としてではなく気持ちの純粋な表れとして使うこと、それがこどもたちがお手本にしたい言葉、気持ち、生き方になるのではないのでしょうか。